

発行

宮城県こもれびの森 森林科学館
〒987-2512 宮城県栗原市花山草木沢角間 10-7

TEL&FAX 0228-56-2330

http://mifi.main.jp/komorebi.htm



イベント報告 -ウッドランドクラブ5月-

～「新緑の一桧山を歩きましょう」!!～

5月のウッドランドクラブは、「新緑の一桧山を歩きましょう」から始まりました。令和の連休明けの12日(日)に実施されました。

新緑が美しい5月の「こもれびの道」を散策して、奥山の緑を観察しました。もちろん、たくさんの花も見ることができました。

春が終わり、初夏に向かうこの時期の「こもれびの森」は、手つかずの自然を満喫できる場所のようです。



＜「こもれびの道」を出発＞

～「山野草観察と石窯でピザを焼いてみよう」!!～

26日(日)のウッドランドクラブは、人気の「山野草観察と石窯でピザを焼いてみよう」です。

「こもれびの森」での山野草観察では、この時期らしい「タラの芽」や「ウルイ」「シドケ」といった山菜があふれていました。山菜のお勉強をしてから、昼食時には、アツアツ、焼きたてピザを楽しみました。山菜の名前を忘れないよう、来年の参加もお待ちしております。



＜山菜がいっぱい～＞

こもれびの森の かわいいことりたち

こもれびの森サポーターで
専属ことりカメラマン(?)
の大家さんのコーナーです

「いろいろな小鳥」

①コサメビタキが同じ枝からトンボなどをくわえに降りていきます。巣があるのかも知れません。可愛いヒナを想像しながらシャッターをおします。②今年は春からよくクマタカが見られます。杉があちこちで伐採され環境が変わったのかな? 餌場に変化があったのでしょうか。③真冬のジョウビタキのメスです。目の前に飛んできて、しばらくポーズをとってくれます。あったまります。大友)

①コサメビタキ



②クマタカ



③ジョウビタキ・(メス)



生き物いろいろ



山のことなら
何でもプロ級、
サポーターの
⑤さんの
コーナーです

～身近にいる小さな虫たち～

キモくない蛾

蛾と聞くと多くの人が顔をゆがめる。幼虫はケムシカイモムシの姿で動きも色合いもキモいものが多い。成虫にいたっては、見た途端に「キヤー!」である。目の前を飛んだら一段大きな悲鳴があがる。

ところが、先日の観察会では、サワフタギにいた幼虫に「きれい!」の声。「シロシタホタルガ」の幼虫は、黒地に緑と赤の斑紋列がきれい? に映るようだ。こうしてみると黒の翅に斜めに走る白帯を持った成虫もどことなく格好よく? 見えてしまいそうだ。(は)



①幼虫・きれい?



②成虫・格好良い?

まめちしきコーナー “花や木などのチョットした知識”

～これも「キク科」!! モミジガサ(キク科)～

山菜の季節です。「モミジガサ(シドケ)」は日本固有種で、各地の山野に自生しています。この時期の若い莖や葉は、「おひたし」や「天ぷら」にすると独特の香りとおほろ苦さを楽しむことができます。「モミジガサ」はキク科ですが、葉の形や夏に咲く花は、キクの花のイメージからほど遠い感じがします。フキやレタス、ヨモギも普通に食用にされていますが、これらもキク科です。

キク科の植物は、世界各地に約2万種あり、日本には約360種が自生し、外来種も120種以上あるといわれています。植物学上からは最も進化し、最も分化した植物とされています。キク科の植物は、遺伝子に変異を引き起こす作用のある物質を持ち、これがさまざまな環境に適応した多くの種類につながっていると考えられています。キク科は「生物多様性」のお手本のような植物ですが、ちなみに、日本人しか食べないといわれる「ゴボウ」も、地中海沿岸～西アジア原産のキク科の植物です。このキク科の野草を食する幸せを”しみじみ”楽しんでおります・・・(千葉)



＜モミジガサ・花＞

科学館情報

御礼申し上げます。

6月10日のイベント「カブト虫の飼育方教室」に必要なカブト虫の幼虫を、地域の方々に提供して頂きたいという願いを4月号にて掲載しました。おかげさまで、地域の方々からの提供もあり、無事、参加者に幼虫を配布することができました。参加した子供たちは、花山の自然を楽しんだようです。来年も、ご協力お願い申し上げます。

宮城県こもれびの森「森林科学館」